

2020年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 日本文学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号

1 / 5

成

績

2020年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 (日 本 文 学 専攻分野)

(注意事項) ① 第一問の解答は、答案紙十七行程度を標準とする。

② 第二問 1から5までの解答は、それぞれ答案紙七行程度を標準とする。

③ 第一問・第二問・第三問ともに縦書きで解答する。

1、大学院で自身が行おうと考えている研究のテーマ、目的、方法、意義を述べよ。

二、次の事項について説明せよ。

1 『古事記』の構成

2 天徳四年内裏歌合

3 幸若舞曲

4 上田秋成『春雨物語』の内容と特質

5 大正期教養主義と文学

三、次の文は『大和物語』の一節である。この全文を適宜言葉を補いつつ丁寧に口語訳せよ。

おなじ帝、狩いとかしこく好みたまひけり。陸奥の国、磐手の郡よりたてまつれる御鷹、世になくかしくかりければ、になうおぼして御手鷹にしたまひけり。名をば磐手となむつけたまくりける。それを、かの道に心ありて、あづかり仕うまつりける大納言にあづけたまくりける。夜昼、これをあづかりて、とりかひたまふほどに、いかがしたまひけむ、そらしたまひてけり。心きもをまどはしてもとむるに、さらにえ見いず。山々に人をやりつつもとめをすれど、さらになし。みづからも深き山に入りて、まどひ歩きたまぐどかひもなし。このことを奏せど、しばしもあるぐけれど、二、三日にあげず御覽せぬ日なし。いかがせむとて、内裏にまゐりて、御鷹のうせたるよし奏したまふ時に、帝、ものものたまはせず。聞こしめしつけぬにやあらむとて、また奏したまふに、おもてをのみまもらせたまうて、ものものたまはず。たいだいしとおぼしたるなりけりと、われにもあらぬ心地して、かしくまりていますかりて、「この御鷹の、もとむるに、侍らぬことを、いかさまにかしはぐらむ。などかおぼせしともたまはぬ」と奏したまふ時に、帝、

いはで思ふぞいふにまされる

とのたまひけり。かくのみのたまはせて、こと事ものたまはざりけり。御心にいといふかひなく、惜しくおぼさるるになむありける。これをなむ、世の中の人、もとをばとかくつけける。もとはかくのみなむありける。

〔口 綴 略〕